

インフルエンザ関連情報 ～県内インフルエンザの流行入りについて～

1 概要

高知県感染症発生動向調査の平成29年第50週（12月11日～17日）報告で、定点医療機関当たりの報告数が1.33と、インフルエンザの流行期開始の指標とされている1.00を今シーズン初めて超えました。県内の流行期入りは昨年と同期で、H24年度シーズンからの過去5年間と比較して大きく変わらず、全国よりは3週間遅い流行入りです。

* シーズンとは

9月から翌年の8月までを1シーズンとしています。

* 定点医療機関当たり報告数とは

インフルエンザの患者数を把握するために、県内48医療機関を定点医療機関として選定し、毎週患者数の報告をいただき、患者総数を定点医療機関数(48)で割った1医療機関当たりの報告数です。

2 全国・高知県内の発生動向（インフルエンザ）

(1) 全国

定点医療機関当たりの報告数は、平成29年第41週（10月9日～15日）以降増加し、平成29年第47週（11月20日～26日）で1.47となり流行入りしています。第47週での流行入りは昨年度より1週遅く、例年よりやや早めの流行入りとなっています。

《参考：過去5年間の全国流行入り時期》

H24年度：第50週、H25年度：51週、H26年度：第48週、H27年度：第1週、H28年度：第46週

最新のデータでは、平成29年第49週（12月4日～10日）が4.06となり、報告数が多かったのは、長崎県10.51、沖縄県7.07、大分県6.84となっています。

直近の平成29年第46週～50週（12月4日～10日）の5週間におけるインフルエンザウイルスの検出状況は、A型が77.5%、B型が22.5%となっています。

(2) 高知県内

定点医療機関当たりの報告数は、平成29年第46週（11月20～26日）より増加し、平成29年第50週（12月11日～17日）で初めて1.00を超え、1.33となり流行期に入りしました。第50週での流行入りは例年と大きく変わりません。

報告数の多い順に中央西福祉保健所管内5.60、高知市保健所管内1.44、幡多福祉保健所管内0.88、須崎福祉保健所管内0.50、安芸福祉保健所管内0.25、中央東福祉保健所管内0.27となっています。

《参考：過去5年間の高知県流行入り時期》

H24年度：第50週、H25年度：49週、H26年度：第51週、H27年度：第3週、H28年度：第50週

県内定点医療機関からの迅速キットによるインフルエンザウイルスの検出状況の報告は64件あり、A型が70.3%、B型が23.4%、型不明6.2%となっており、全国の状況と同様にA型の割合が多くなっています。

(3) 高知県内保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校における休校数、学年閉鎖学校数、学級閉鎖学校数（平成29年第37週から50週までの累計）

休校0、学年閉鎖学校数2、学級閉鎖学校数0

3 予防対策と注意事項

【かからないために】

①外出した後などには、こまめに手洗いをしましょう。

②外出時は、なるべく人ごみを避けましょう。

③十分な栄養と休養をとりましょう。

【人にうつさないようにするために】

①インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ等の飛沫により感染するため、咳やくしゃみが出るときはマスクをするなどの「咳エチケット」を守りましょう。

②インフルエンザが疑われる場合には、人ごみへの外出を控え、無理をして学校や職場にいかなないようにしましょう。

【医療機関を受診する時の注意点】

①事前に電話をして、受診時間や受診に際しての注意事項を確認しましょう。

②受診する際には、必ずマスクを着用しましょう。

4 その他

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/>

国立感染症研究所感染症情報センターホームページ

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu.html>

高知県健康対策課ホームページ

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/influ.html>

高知県感染症情報ホームページ

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/kansenshouzyouhou.html>

※高知県では、日本一の健康長寿県構想を策定し、
県民の健康づくりを重点的に進めています。

担当課：健康対策課
担当者：徳橋、宮地
電話：823-9677